

年頭のご挨拶

奥出雲町長 井上 勝 博

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

先ずもって心からお慶びを申し上げます。

昨年は、三月十一日に日本観測史上最大規模の東日本大震災が発生し、多くの尊い命が失われ、現在もお安否が判らない方々が多数いらっしゃるなど、自然災害の怖さを痛感し、命の尊さについて深く考えさせられた一年でした。

奥出雲町からも、給水車による給水支援、保健師の派遣、ペットボトル飲料水の物資支援など被災地支援に取り組み、給水支援活動先の宮城県色麻町長からは、来町のうえ直接感謝状を頂戴するなど、人々との絆の大切さを改めて認識した年であったように思います。

地域防災講座を開催し、多数の町民の皆様にご参加いただきました。今後、地域防災計画の見直しや自主防災組織の体制づくりなど、安心して暮らすことのできるまちづくりを目指して参りたいと考えております。

また、まちづくりの基本指針となる「奥出雲町総合計画」を昨年三月に策定し、「心豊かで潤いと活力のある奥出雲」笑顔と語らい、元氣あふれるまちづくり」を将来像に、新たなスタートを切った年でもあります。

このような中、町内では、横田高校男子ホッケー部が全国高校総体で無失点優勝、将棋女流タイトル・倉敷藤花戦の開催、東京藝術大学との交流事業など、多くの明るい話題があったほか、百年の大計と言われた尾原ダムが完工、ダム湖周辺には自転車競技とボート競技の二施設が竣工したところ です。

さて、本町の平成二十三年度の一般会計予算は、十二月補正予算後で約百六十八億五千万円を計上することになりました。生活インフラ整備、雇用対策、地域活性化対策、定住対策、産業振興、子育て支援など、当面する諸課題に対応するとともに、経済情勢を鑑み、景気対策に資する事業に重点的に予算配分することとしております。

特に、「安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくり」は最重要課題であります。子育てに関する様々な不安や負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などの施策を積極的にを行い、子育て家庭の支援と、子育て世代に望まれる環境づくりに引き続き取り組みます。

一方、経済に目を転じますと、国内企業の多くが東日本大震災からは立ち直りつつあるものの、急激な円高や世界同時株安、電力不足など先行き不安の要因を抱えている状況にあります。主要企業の半数以上が工場などの海外進出を加速させるとのアンケート結果もあり、国内産業の空洞化が懸念されます。

今後、健全な財政運営を堅持しながら、引き続き、町民の皆様から要望の多い生活基盤の整備や基幹産業である農業の振興、町内企業の成長支援、観光振興施策などをすすめたいと考えております。

また本年は、古事記編纂千三百年を迎え、島根県では「神々の国しまね」プロジェクトとして様々なイベントが実施されます。スサノオノミコトが天下った鳥髪(ハトリカミ)の山(船通山)を持ち、ヤマタノオロチ退治神話の舞台である本町としても、奥出雲の豊かな自然や古き良き文化・歴史をこの機会にPRし、交流人口の拡大に向け全力を挙げて取り組み考えています。

そのためには、商工・観光の関係者だけでなく、自治会や地域づくり活動団体、教育関係者などから幅広い参画をいただき、地域の魅力や資源を最大限に生かしたまちづくりに取り組んで参ります。

これから平成二十四年度の予算編成に入りますが、「笑顔と語らい、元氣あふれる町づくり」をスローガンに、潤いと活力にあふれた奥出雲町を皆様と一緒に築いていきたいと思います。

結びになりますが、本年が皆様にとりまして、明るく希望に満ちた幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

新春を飾る伝統の箱根駅伝

奥出雲町出身 東京農業大学 松原健太 選手が力走!!

関東の大学20校が出場した、伝統の「第88回東京箱根間往復大学駅伝競走大会」(1月2日・3日開催)に、奥出雲町三沢出身の松原健太選手(東京農業大学4年)が出場しました。

松原選手は、1年生から毎年箱根駅伝に出場。学生最後の今年は、チームのエースとして、第7区(21.3km・小田原～平塚)を走り抜きました。

レースでは、区間序盤から持ち味のスピードを生かし、前を走る青山学院大学を8km付近で追い抜く力走を見せ、その姿は、テレビ中継にもたびたび映し出されました。

レースを終えた松原選手は「4年の間には喜びも苦労もあったが、4年連続で箱根駅伝を走ることができて幸せ。卒業後は実業団で競技を続け、将来は日の丸を着けて走れるよう精進したい」と今後の抱負を話されました。今後、一層の活躍が期待されます。



▲声援を受け、学生最後の箱根路を力走

地区住民の念願

馬木診療所 開所



▲馬木小学校近くに開所した馬木診療所

町で整備を進めていた「馬木診療所」が完成し、一月九日、関係者や地元住民など約五十人の出席のもと、開所式が行われました。

馬木地区は、昨年一月に小馬木にあった個人病院が閉院されたことで、無医地区となっており、待望の診療所開設となりました。

整備事業費は約六千八百万円。延面積は百七十二・六平方メートルで、診察室、処置室、事務室のほか、ゆったりとした待合室が設けられています。



▲テープカット

また運営には、指定管理方式により、医療法人石原医院分院(寺井洋理事長)があたりられます。

式では、診療所前で関係者によるテープカットが行われた後、施設内を見学しました。



▲挨拶する寺井理事長

今後、「地域の診療所」として親しまれるとともに、地域医療の一端を担う診療所として期待されます。

会場を馬木コミュニティセンターに移し行われた式典で、井上町長から「医療サービス充実が求められる中、町民の信頼を得ている石原医院分院が診療にあたられることはありがたい。今後益々、馬木地区の健康増進に期待したい」と式辞が述べられました。

◎診療科 内科、小児科
◎診療時間 毎週火曜日、金曜日 14:00～15:45 ※30分前には開所しています。
※受診には予約が必要です。
【予約、お問い合わせ先】
診療時間内：馬木診療所 電話:53-0500／有線:30-0500
診療時間外：石原医院分院 電話:52-3110